

6. NIPPON DATA90 30 年追跡の状況

NIPPON DATA80/90 追跡ワーキンググループ

早川 岳人（立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授）

喜多 義邦（敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授）

1. NIPPON DATA90 30 年追跡の実施

平成 2 年（1990 年）に循環器疾患基礎調査を受診した人達の追跡調査は、NIPPON DATA90 と呼称されているが、5 年ごとに住民基本台帳法にもとづく住民票請求により対象者の予後（生存、死亡）を確認し、死亡者に対して国の人口動態統計がまとめた段階で死亡原因を照合し、前向きに追跡を行っている。昨年度、30 年目（1990 年から 2020 年の 30 年間）の予後追跡を行った。

2. 人口動態統計データとの突合

住民票請求を行った役所のうち、交付した役所は 417 カ所（91.6%）、交付不可役所は 38 カ所（8.4%）だった。追跡対象者 4,864 名のうち、生存は 4,085 名（84%）、死亡 242 名（5.0%）役所拒否で予後が確定出来なかった者 535 名（11.0%）、海外転出 1 名（0.02%）であった。全体の追跡率は 89.0%であった。

この追跡をもとに、死亡者に対して死亡原因を照合するために、厚生労働省に動態統計データの目的外申請を行った。申請するにあたって、今回の死亡者 242 名の死亡した年、死亡時の都道府県番号、死亡時市町村番号、保健所番号をリスト化し、これらの対象者に対する死亡原因情報を請求した。申請項目として、死亡した年、都道府県番号、市町村番号、保健所番号、性別、出生年月日、死亡年月日、原死因、死因簡単分類コードとした。

その後、厚生労働省から死亡動態統計データとして、平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020 年）までの該当する死亡者データ（4,570,160 人分）を提供された。

データはテキストデータ形式のため、データレイアウト、ならびにデータ定義書に沿って、フィールド定義しデータベースに加工した。

今後、今回 NIPPON DATA90 で 30 年追跡し死亡が確定した者の死亡地都道府県市町村、性別、生年月日、死亡年月日情報と、動態統計データを照合し、死亡原因を照合していく。その後、これまでの追跡データに情報を追加し、解析データの作成を行っていく。

調査票／調査年	ファイル		データ件数
	名称	総バイト数	
死亡票			
平成22年	h22shibo.txt	64,832,096	374,752
平成23年	h23shibo.txt	68,115,463	393,731
平成24年	h24shibo.txt	69,114,711	399,507
平成25年	h25shibo.txt	70,054,620	404,940
平成26年	h26shibo.txt	70,324,846	406,502
平成27年	h27shibo.txt	71,492,077	413,249
平成28年	h28shibo.txt	72,336,490	418,130
平成29年	h29shibo.txt	74,641,196	431,452
平成30年	h30shibo.txt	81,447,168	437,888
令和元年	r01shibo.txt	82,881,600	445,600
令和2年	r02shibo.txt	82,660,074	444,409

NIPPON DATA90、新たに死亡原因を突合するために使用する人口動態調査データ（平成 22 年から令和元年までの 10 年間データ）